

2026年度の省エネルギー対策について

慶應義塾全体のカーボンニュートラル化の推進と、エネルギー（電気・ガス）コストの変動に対応するため、2025年度に引き続き省エネ法で定められた目標値（エネルギー消費原単位を年平均で1%以上低減）より高い省エネルギー目標を設定し、既存施設の高効率化や再生可能エネルギー導入などハード対策の積極的な実施と、電力使用機器の使用抑制などソフト対策をより徹底することで、その達成を目指す。

1 省エネルギー目標

「各キャンパス単位でエネルギー消費原単位を2025年度比で2%以上低減する」

※エネルギー消費原単位

異なる単位を用いるエネルギー（電気・ガスなど）の使用量を合計するために、各エネルギーを熱量換算し、その合計値を各キャンパスの延べ床面積で除して「エネルギー消費原単位」を算出する。

2 対象期間 2026年度中

3 具体的運用例

基本方針は、昨年度までの対策を概ね踏襲する。

なお、以下の運用については、教育・研究・医療環境を損なうことのないよう配慮しながら実施することとする。

(1) 施設改修などハード対策

ア 高効率機器採用について

- ・照明設備のLED化を促進する。（用途により施工時期が限定される室を除き2026年度までの完了を目指す）
- ・空調設備を高効率設備に更新する。
- ・熱源機器（CGS含む）の高効率化改修を検討する。
- ・建物の外皮性能の向上を検討する。

イ 再生可能エネルギーの導入について

- ・再生可能エネルギー（主に太陽光発電設備）の導入を積極的に進める。
- ・築年数や構造などにより過去に設置可能性が低いと判断した建物についても、現状の技術にてらして設置を検討する。

ウ エネルギーの管理・分析について

- ・既存エネルギーマネジメントシステムを活用し、建物ごとなどきめ細かなエネルギー管理および分析を行い既存設備の運用改善、省エネ化改修の検討を進める。
- ・一部導入済みの新エネルギー見える化システム（電気・ガス）を各地区へ展開する。

(2) 運用などソフト対策

ア 空調・換気について

- ・使用していない教室などの空調停止を行う。
- ・室内温度が環境省の推奨室温を満たす様に空調温度を設定する。（推奨室温 冷房時：28℃、暖房時：20℃）
- ・利用申請のない教室・会議室の空調機稼働停止を徹底する。
- ・教室などの環境をモニタリングし、過度な換気を抑制することでエネルギーロスの少ない換気を徹底する。
- ・外気冷房を積極的に利用する。

イ 照明について

- ・使用していない教室などの消灯、および安全性と必要照度を確保した上で共用部の減灯・消灯を適切に行う。
- ・利用申請のない教室・会議室は照明の消灯を徹底する。

ウ エレベーターの運用について

- ・複数台設置されている場所については一部を停止する。
- ・階段の利用を勧める掲示等をする。

エ 電気機器・OA機器などについて

- ・電気温水器・暖房便座などさまざまな電気機器類について必要最低限の稼働とする。また、持込電気機器類の使用は禁止とする。
- ・待機電力削減のため、各自が使用しているパソコンなどは、離席時など未使用時は電源を切る。
- ・実験機器などの更新時には高効率機器の選定を心がける。また、未使用機器は稼働を停止するとともに、廃棄を検討する。

オ 啓発活動について

- ・公式HP、義塾イントラサイト、2025年度から一部導入済みの新エネルギー見える化システムなどにおいて各施設のエネルギー使用量やCO₂排出量の推移を開示することで、学生・教職員が各々の努力や協力の効果を実感し、省エネ・環境問題への意識・関心を高め、省エネ活動に対して自発的な行動変容を促す。

カ クールビズ・ウォームビズについて

- ・教職員に対して、クールビズおよびウォームビズを奨励する。
- 対象期間は、クールビズ 5月1日～10月31日、ウォームビズ 12月1日～3月31日

4 今年度実施計画中の主な省エネルギー対策

全塾で進めている照明器具のLED化以外に以下の対策を実施する

- ・三田キャンパス：南館熱源設備（CGS含む）の高効率化改修
- ・日吉キャンパス：各教室換気扇の全熱交換器（CO2制御型）への取り替え
- ・矢上キャンパス：太陽光発電システムの設置検討
- ・湘南藤沢キャンパス：太陽光発電システム(578kW)の稼働開始・運用改善
- ・信濃町キャンパス：総合医科学研究棟の熱源設備更新
- ・芝共立キャンパス：ドラフトチャンバーの省エネルギー改修

以上